

洞爺湖町過疎地域持続的発展市町村計画（素案）パブリックコメント意見に対する町の考え方について

パブリックコメント提出者及び意見	町の考え方
<p>① 《町内在住:女性》</p> <p>・2-2 産業の振興について</p> <p>本計画では、洞爺湖有珠山ジオパークをはじめとした地域資源を活用し、広域的な周遊の促進や外国人観光客の誘致を通じて、観光を中心とした産業振興を図る方針が示されています。この方向性自体には理解を示すものです。</p> <p>一方で、観光施策が「その年に実施しなければ効果が生まれにくい取り組み」を中心に構成される場合、毎年同様の施策を継続しなければ成果が蓄積されず、地域産業としての持続性が見えにくくなるのではないかと感じます。観光が町の基幹産業の一つであるからこそ、単年度ごとの集客や消費の増加だけでなく、地域に人材や知識、関係性が少しずつ積み重なっていく仕組みが重要であると考えます。</p> <p>また、体験型や高付加価値型の観光についても、特定の事業者や限定的な場面に効果が集中する形ではなく、地域内の多様な担い手が関わり、継続的に参画できる形で展開されることが、産業としての広がりにつながるのではないかでしょうか。観光を一過性の取り組みに終わらせず、地域の中に経験や技術が残っていく形で育てていく視点が、計画の中でもう少し具体的に示されることを期待します。</p>	<p>観光施策に関しましては洞爺湖・有珠山・噴火湾に囲まれた雄大な自然や、温泉地としての観光業、一次産業である農業や漁業など、豊かな地域資源を最大限活用し、SNSでの情報発信や地域の特産品等を活用したふるさと納税による関係人口の創出も継続して進めているところです。</p> <p>当計画は人口減少で活力が低下した地域を、人材確保・育成、雇用創出、住民福祉向上、地域格差是正、美しい国土形成などを目指し、そのための総合的・計画的な対策を自治体が実施するための計画です。</p> <p>今後も、計画を基本としながら、地域全体として魅力や価値を高められるよう、持続可能な施策を推進してまいります。</p>

自然環境や景観そのものが大きな魅力である洞爺湖町においては、目に見える演出や集客策を重ねる観光だけでなく、地域の日常や自然の価値がそのまま魅力となり、結果として何度も訪れたくなる関係性を育てる観光のあり方も、長期的には地域産業の持続性を高めると考えます。

・観光施策の推進に伴う防災・安全対策について

本計画では、観光振興や地域間交流の促進、外国人観光客の誘致など、町外から人を呼び込む施策が多く示されています。こうした方向性を進めていく上では、来訪者を含めた安全・安心の確保が、すべての施策の前提条件であると考えます。

一方で、災害時や緊急時における来訪者への情報提供や行動指針については、本計画の中で十分に整理・位置づけられているとは言い難い印象を受けます。実際に、本年 11 月に発生した地震の際には、町内に滞在していた旅行者から「外に出た方がよいのか、宿泊施設内に留まるべきなのか分からず、不安だった」という声を直接聞きました。

現在の防災アナウンスは日本語のみで行われており、外国人旅行者にとっては、状況を理解し適切な行動を取ることが難しい場面も想定されます。観光を推進し、交流人口の増加を図るのであれば、多言語での防災情報提供や、災害時の行動指針の明確化、宿泊施設等との連携体制の整理など、来訪者を含めた防

洞爺湖町も含めた観光を主要産業とする市町村では、外国人観光客の入込数が増加している傾向にあり、一部ではオーバーツーリズムが問題となる地域もあります。また、外国人の住民数も年々増加傾向にあり、案内や情報提供の多言語化は必要性を増し、国は多文化共生施策の推進を促進しています。当町としても、観光の持続的な振興やどなたでも暮らしやすいまちとするため、防災も含めた安心・安全なまちづくりを推進してまいります。

※防災については、「洞爺湖町地域防災計画」で方向性を示しています。

災・安全対策を計画の中で明確に位置づける必要があると考えます。

観光振興、地域文化の継承、住民の暮らしのいずれにおいても、安全・安心の確保は不可欠な基盤です。今後の施策推進にあたり、来訪者の安全を含めた防災体制の充実について、計画の中より具体的に示されることを強く期待します。

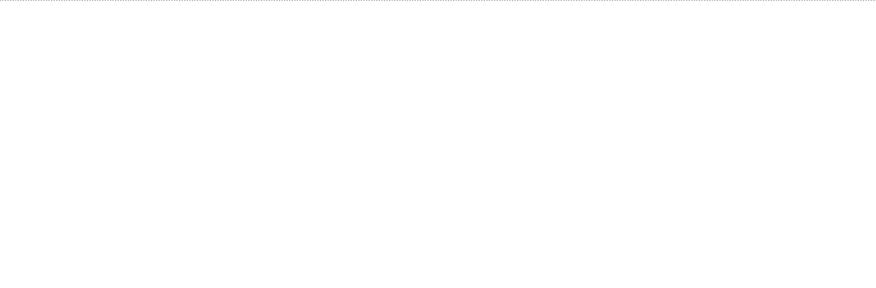
・2-11 再生可能エネルギーの利用の推進について

本計画では、省エネ家電への買い換え支援などを通じてゼロカーボンシティの実現を目指すとされていますが、一方で電飾を多用した冬季のイルミネーション事業も継続的に実施されており、施策全体の方向性が町民にとって分かりにくい印象を受けます。

持続可能なまちづくりを進めるためには、象徴的な事業よりも、実際にエネルギー消費や環境負荷の低減につながる取り組みを優先する考え方を、計画の中で明確に示すことが重要だと考えます。

また、「再生可能エネルギーの利用の推進」において、地熱など洞爺湖町の特性を生かしたエネルギー活用の可能性が示されている点は、大変意義深いものと感じています。一方で、これらのエネルギーを今後どの分野や用途に重点的に活用していくのか、その優先順位や考え方については、計画からは必ずしも明確ではないように受け取られました。

参考資料では、洞爺湖町における地熱発電の導入ポテンシャル



2023年1月13日に当町は2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「洞爺湖町ゼロカーボンシティ宣言」を行い、カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいます。温室効果ガスの削減目標や町民・事業者・行政の取組を明確にし、各主体が相互に協力・協働し合いながら、地球温暖化対策に貢献することを目指しています。

当計画と別の計画にはなりますが、企業や家庭から排出される二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスの「排出量」から、森林による「吸収量」やCO₂回収技術による「除去量」を差し引き、排出量の合計を実質的にゼロにすることを目標に今後も施策を推進してまいります。

※ゼロカーボンに関する当町の基本的な考え方や詳細は「洞爺湖町地球温暖化対策実行計画」で方向性を示しています。

ルとして、一定規模の発電量や CO₂削減効果が試算されており、地域資源としての可能性が示されています。こうした前提を踏まえ、防災拠点や公共施設など、災害時にも機能継続が求められる施設への活用や、観光施策との関係性について、町としての基本的な考え方を計画の中で示していただけすると、町民にとって理解しやすくなるのではないかと考えます。

地球温暖化対策は一時的な施策や象徴的な事業だけで成果が出るものではなく、継続的で一貫した取り組みがあってこそ効果を発揮するものです。町として本気でゼロカーボンを目指すのであれば、理念と実際のエネルギー利用との整合性をより分かりやすく示していただくことが、町民の理解や行動につながるのではないかでしょうか。

・計画資料の表記および文書管理について

本計画が他計画との整合性を図りながら策定される重要な文書であることを踏まえ、公開資料の表記および管理についても意見を述べます。

今回の「洞爺湖町過疎地域持続的発展市町村計画(R8～R12)素案のパブリックコメントについて」のページで公開されている資料のうち、

①「パブリックコメントについて」と示される該当資料の PDF ファイル名が「洞爺湖町地域防災計画(原案)への意見を募集します」となっていること、②「過疎計画(素案)」と示される該当資料の PDF ファイル名が「洞爺湖町過疎地域自立促進市町村計画」とな

ご指摘ありがとうございます。PDF ファイル名を修正し、タイトルが別資料のものとなっておりました。確認、整理及び修正いたします。

っていること、③募集用紙の PDF ファイル名が「壮瞥町総務課宛」となっていることを確認しております。これらは過去資料の流用等によるものと推察されますが、計画の正式名称や所管を誤解させかねず、計画文書としての正確性や信頼性の観点からは見過ごせない事項であると考えます。町民から意見を募る公式な手続きであるからこそ、文書管理や情報公開の正確さについて、改めて確認・整理を行ったうえでの対応を求める。

・2-3 地域における情報化について(公式ホームページの通信環境)

あわせて、洞爺湖町公式ホームページが一部「保護されていない通信」と表示される状態となっている点についても懸念を示します。公式ホームページは、町民への情報提供、意見募集、観光情報の発信など、行政と町民・来訪者をつなぐ重要な基盤です。

今後、地域の情報化や外国人を含む来訪者への情報発信を進めしていくのであれば、通信の暗号化(HTTPS 化)を含む情報セキュリティの確保は、基盤整備として優先的に取り組むべき事項であると考えます。計画が掲げる「持続的発展」を支える前提として、デジタル環境の信頼性・安全性についても重要視していただきたいと思います。

ご指摘ありがとうございます。情報関係担当課にも共有し、通信の暗号化によるセキュリティ向上やホームページの高速表示を検討してまいります。

<p>計画全体について</p> <p>本計画は、洞爺湖町の将来像を描くうえで極めて重要なものだと感じています。</p> <p>今回述べた意見は、限られた分野に焦点を当てたものではありますが、計画がより持続的で、地域に根ざしたものとなることを願っております。</p> <p>今後、計画が具体化・実行されていく過程においても、地域住民や現場の声が継続的に反映される仕組みが築かれるこことを期待します。</p>	<p>様々、ご意見ありがとうございます。今回改訂する当計画を基礎とし、変わりゆく情勢にも柔軟に対応しながら当町の多様な分野での持続的な地域活性化を推進してまいります。</p>
<p>② 《町内在住:男性》</p> <p>2-4 交通手段の確保について</p> <p>コミュニティバスの増便、本当にありがとうございます。時間の選択肢も便数も増えてとっても助かっています。運転手さんも優しい方ばかりで感謝しています。朝早くから夜遅くまでありがとうございます。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。今後もできる限り多くの方にご利用いただけるよう、皆様の意見を参考とさせていただき、時刻表の改訂などを適宜実施してまいります。つきましては今後もご利用いただき、気づいた点があれば気軽にご連絡いただければ幸いです。</p>
<p>2-2 産業の振興部分の「商業」について</p> <p>洞爺湖水の駅周辺では生鮮を買うことができません。魚と肉を買える A マートなどのスーパーの誘致をお願い致します。それが難しいのであれば、暫定的に水の駅に A マートからお肉と魚を卸して頂き買えるようになると子供にも季節の食材を食べさせることができますなど、生活が豊かになり助かります。※水の駅にきのこ王国の製品取り扱いが始まつたら嬉しいです</p>	<p>事業者側の採算性や立地条件など、様々な問題がありますので、直ちに誘致を実現することは難しい状況ですが、地域の皆さまが安心して暮らせる環境づくりのため、いただいたご意見を今後の検討材料として活用してまいります。引き続き、町政へのご理解とご協力を賜りますようお願いします。</p>

<p>③ 《町内在住:男性》</p>	
<p>①素案に対しての質問事項</p> <p>前計画についての総括はいつ、誰が（どの機関が）、どのように総括されたのでしょうか。</p> <p>総括されているならば、その資料などは閲覧可能なのでしょうか。</p>	<p>当計画は、洞爺湖町まちづくり審議会にて内容を協議し、町民からパブリックコメントを募り、北海道や国と協議をしたのちに洞爺湖町として策定を進める計画です。まちづくり審議会での協議内容等は閲覧可能となっております。</p>
<p>②確認事項</p> <p>概要2-2産業の振興方針項目に「新型コロナウイルス感染対策の長期化を踏まえ」とありますが、素案本文にはコロナウイルス云々という記述はありませんでした。</p> <p>おそらく前計画の同項目から引用されていると思われますので、ご確認の上再度方針について概要記載をお願いいたします。その他同様の事象があるかもしれませんので、併せて確認されたほうが良いと思います。</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。再度全体を確認の上、修正いたします。</p>
<p>③素案についての提案意見</p> <p>1) 2-1 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成 について</p> <p>①虻田地区における重点的な中心地域活性化</p> <p>移住・定住における課題として住むところと仕事というはこれまでも、これからも変わらないと考えております。</p> <p>その上で、おそらく現状町営住宅及び空き家・空き地が多くあるのは虻田地区だと考えております。</p> <p>しかし、私の知る限り洞爺地区には移住したいという人が多く</p>	<p>① 虻田地区における重点的な中心地域活性化</p> <p>上記につきまして、別の質問者様からの回答にも記載しておりますが、地域の魅力創出には洞爺湖・有珠山・噴火湾に囲まれた雄大な自然や、温泉地としての観光業、一次産業である農業や漁業など、豊かな地域資源を最大限活用し、SNSでの情報発信や地域の特産品等を活用したふるさと納税による関係人口の創出や移住・定住対策も継続して進めている</p>

いるのですが、その他地区には移住したいという話をあまり聞きません。

虻田は役場もあり JR の駅もある町の顔とも言うべき地域ではあるものの、地域の魅力という部分では課題があると感じます。

それらを踏まえ、洞爺地区でも開催したように地域フォーラムを開催し、地域の人の声も聞きながら、虻田地区の活性化を図る手立てを考え、民間の力(まちづくり会社やコンサルタント等)も使いながら向こう 5 年での重点活性化地域とされることが重要だと感じます。

温泉地区、洞爺地区には移住者も多く、その中でキーとなるような方もおり、そういった人が人を呼ぶという繋がりからの移住者が多いように感じています。

虻田地区にもそういう人がきっと民間にいらっしゃると思いますので、町との連携の中で地域活性にご尽力いただければと思います。

②外国人による土地購入について

特に洞爺地区ではここ 1~2 年顕著にあらわれています。

実際相当額で外国人に売却されたケースもあるようです。

他地域の状況も鑑み適切な対応が必要なのではないでしょうか。

先にも述べたように洞爺地区は移住したい人がたくさんいるにも関わらず、住むところが無いという状況があります。

また、家を建てたくても土地が無い、もしくは田舎にしては相当

ところです。町民の皆様の力もお借りし、各地区それぞれの魅力を最大限生かしながら、まち全体として持続的な地域活性化を推進してまいります。

※まちづくりに関する内容については「洞爺湖町まちづくり総合計画」をご覧ください。

② 外国人による土地購入について

現在他国籍の方の土地購入について直接的に制限する法律はありません。国の動向や情勢に注視しながら対応してまいります。

③ 地域おこし協力隊の有効活用

ご指摘のとおり、町の課題解決において民間の知見や柔軟な発想を取り入れることは非常に重要ですので、町の課題解決や、地域の活性化に取り組むべく、当町でも地域おこし協力隊制度を活用しております。平成 26 年度(2014 年度)から協力隊の受入れを開始、令和 7 年度(2025 年度)までに、延 29 名が活動し、洞爺湖町に思い入れのある方や興味のある方であると認識しております。地域の活性化や人口増にもつながりますので、今後も積極的に活用してまいります。

な価格となっている状況もあります。

洞爺地区だけではありませんが、本当に住みたい人、定住してもらえる人に住んでもらうことが人口増加にもつながるのは明白だと思いますので、しっかりと対応を考えるタイミングではないでしょうか。

③地域おこし協力隊の有効活用

上記ふたつの提案にもつながるのですが、地域おこし協力隊としての担い手をしっかりと確保し、移住・定住に繋げる取り組みは強化すべきです。

町の課題解決のために民間の力を活用するという視点は非常に大切だと思います。

また、ただ地域おこし協力隊になりたいという人ではなく、この地域が好きだからと思って応募してくれる人も多くいると聞いています。

運用の問題・課題は多々あるとは思いますが、人口増の有効な手段と捉えしっかりと計画的に募集・運用をしていただきたいと思います。

2) 2-2 産業の振興について

① 新基幹産業の創出と振興

洞爺湖町の基幹産業は1次産業(農業・水産業)と3次産業(観光・宿泊・飲食・福祉サービス等)ですが、昨今の情勢として、天候不良や気候変動の影響、新型コロナウイルスの影響や日中問題など外的要因による影響・振れ幅も大きく、また人員不足や後継者不足による産業の衰退も懸念される状況により、町の経済を支える確固たる基盤が揺らぎつつあると感じています。

これから向こう5年、更に先を見据えた産業振興のあり方として、既存の産業振興及び衰退を止めることはもちろん重要ですが、新基幹産業の創出と振興は必要だと考えます。

例えば)

・IT関連事業者の移転及びIT関連人材の起業者の創出だと考えます。

ここ数年のAIをはじめとする技術革新の速さは目を見張るものがあり、コロナの影響からリモートワークやノマドワーカーも多数事例が見られます。

洞爺湖町は札幌とのアクセスも良く、新千歳空港までも高速やJRで行くことが可能なため業務遂行上のデメリットは少ないよう思います。

自然豊かでリフレッシュしやすい環境もあるのでアピールやすいのではないでしょうか。

様々、洞爺湖町のことを考えたご意見に感謝いたします。

洞爺湖町の基幹産業は人口減少等による人材不足や後継者不足など、いくつかの要因により厳しい状況に置かれているとのご指摘について、町としても同様の認識を持っております。既存産業の振興に加え、将来を見据えた新たな産業の創出は、町の持続的な発展に向けて重要な視点ですので、地域資源を生かし、国や北海道も推進している6次産業化や民間企業や研究機関との連携も含め、検討を進めてまいります。

今後も町民の皆様のご意見を取り入れ、洞爺湖町の魅力を最大限生かしながら、当町全体の持続的な地域活性化に注力してまいります。

町との連携で考えれば、例えば IT 人材の育成プログラムを官民連携で開発し、洞爺湖町内で人材育成できるスクールのようなものを運営していくことや、小中学校での教育機会など町民にもそういった機会創出ができる可能性が広がるかと思います。

- ・アウトドア関連事業者の本社移転

ジオパーク、国立公園のメリットを活かし、自然と調和した事業としてアウトドア関連事業者は親和性が高いと考えます。

ニセコやルツツなども近く、町内でも様々なアウトドア体験が可能なので、仕事終わりや休日にアウトドアを楽しむ人なども増えていくかもしれません。

関連事業として EC 拠点などもあれば雇用も生まれるでしょうし、例えば町の遊休施設を利用してもらうことで町としてもメリットがあるかもしれません

そう簡単に物事が進まないのは承知の上で、既存産業のみでは確実に厳しい未来が待っていると思います。

いつかどこかでなにか新しい取り組みに手をつけなければならないのなら、今この時ではないでしょうか。